

長野県知事 様

平成28年度長野県産業廃棄物3R実践協定 実施結果報告書

下記のとおり、産業廃棄物3R実践計画の実施結果報告書を提出します。

協定期間	平成△■年度から平成△▲年度	
会社名	〇〇建設株式会社	
住所	〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2	
代表者名	代表取締役	〇〇〇〇 印
業種	製造業	・ 建設業
処理施設 所在地 <small>(処理施設を有する場合)</small>	施設名	所在地
	長野中間処理場	長野市大字南長野字幅下692-2
	須坂最終処分場	須坂市大字須坂
担当部署	建設部住宅建築課	
担当者名	課長 〇〇〇〇	
連絡先	TEL	026-123-4567
	FAX	026-765-4321
	電子メールアドレス	nnnnnnn@aaabbb.ne.jp

1 目標達成状況

(1) 総排出量に関する達成状況

※計画策定時に採用した指標で記入してください。

① 総排出量 (t・kg 又は m³ ※採用した単位に〇) / 売上高 (円)

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
平成28年度目標値	平成28年度実績値	平成27年度実績値	平成26年度実績値
0.00000239	0.00000232	0.00000244	0.0000025

② ①以外の指標

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
平成28年度目標値	平成28年度実績値	平成27年度実績値	平成26年度実績値

(2) 廃棄物処理（リサイクルしたものは除く）に要した費用に関する達成状況

廃棄物処理（リサイクルしたものは除く）に要した費用（円）／売上高（円）×100（％）

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
平成 28 年度目標値	平成 28 年度実績値	平成 27 年度実績値	平成 26 年度実績値
0.109%	0.107%	0.122%	0.138%

(3) リサイクルに要した費用に関する達成状況

リサイクルに要した費用（円）／売上高（円）×100（％）

当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
平成 28 年度目標値	平成 28 年度実績値	平成 27 年度実績値	平成 26 年度実績値
0.313%	0.324%	0.341%	0.4%

(4) リサイクル率（％）

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	平成 27 年度 実績値	平成 26 年度 実績値
コンクリート	100	99.8	99.5	99.2
アスファルト	100	99.8	99.8	99.5
木材 (熱回収、焼却による 減量化分含む)	95	98	88	85
建設汚泥 (中間処理残さの リサイクル率)	60	50	30	27

(5) リサイクル製品使用率（％）

製品（材料）種別	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	平成 27 年度 実績値	平成 26 年度 実績値
インターロッキング ブロック	50	50	30	40
擬木	20	15	15	10
パーティクルボード	70	60	50	55
埋戻し材	50	50	45	40

*リサイクル製品使用率＝リサイクル製品（材料）使用量／全体材料使用量（％）

2 産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理の方法等に関する情報公開実績

現場毎に掲示板を設置し、産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理方法を掲示し、付近住民に情報を公開した。

当社ホームページに、現場毎のデータ及び集計データを掲載し、会社全体の産業廃棄物の処理状況を公開した。

また、排出抑制のための工夫を主要現場毎に掲載した。

3 産業廃棄物処理施設の地域への公開実績（処理施設を有する場合のみ）

施設の名称	施設公開状況			
	日時	対象者	人数	内容
長野中間処理場	H28. 6. 3	〇〇地区住民	30	場内見学会を実施
	H28. 10. 27	△△自治会役員	15	場内見学会及び勉強会を実施
須坂最終処分場	毎月1回	〇〇地区住民	200	ニュースレター発行
	H28. 6. 23	□□小学校3年生	100	社会見学会を実施

4 処理を委託した処理業者（施設）の現地確認実績

区分	廃棄物の種類	現地確認結果（確認回数、確認日、確認状況等）
中間処理場	コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊	確認は、H28/5/25, 7/26, 9/21, 11/24, 12/20, H29/1/17, 3/23の計7回実施。適正処理の状況とリサイクル状況を確認した。
	木くず	確認は、H28/4/22, 6/25, 8/23, 10/20, 12/22, H29/2/25の計6回実施。適正処理の状況とリサイクル状況を確認した。
最終処分場	廃プラスチック	確認は、H28/5/28, 7/23, 10/20, 12/20, H29/1/24, 3/28の計6回実施。適正処理の状況を確認した。
	建設汚泥	確認は、H28/5/27, 7/20, 9/21, 12/20, H29/1/28, 3/28の計6回実施。適正処理の状況を確認した。

5 従業員教育（研修）実績

実施月日	対象者	実施内容
H28. 4. 25	入社5年以内の若手社員	〇〇研究所所長□□□□氏を招き、排出抑制の先進事例を学んだ。
H28. 9. 10	産業廃棄物管理責任者及び担当者	取引先社員と、排出抑制のための資材梱包方法の見直しについて、研修会を実施した。

6 リサイクル促進に向けた取組み実績

工場加工（組み立て）製品使用率を前年度より5%向上させ、現場での廃棄物発生抑制を図った。また、発生端材を再利用したリサイクル製品の研究開発も進めた。

資材について、可能なものについては近隣の現場で共同発注を行い、梱包材の発生抑制に努めた。

7 処理を委託した廃棄物について、不法投棄・不適正処理が生じた場合の排出事業者としての取組み実績

当社が処理を委託した廃棄物については、現地確認なども行い、最終処分まで適正に処理されたことを確認した。

8 他の不適正処理が生じた場合の協力実績

平成28年5月10日、当社現場付近の山林において、不法投棄と思われる産業廃棄物約2000m³を発見したため、県及び〇〇市に報告した。
また、現場の社員からの情報を関係機関へ提供し、原因究明のための協力を行った。

9 その他独自に取組んだ事項についての実績

※環境認証制度等の取得*、電子マニフェスト(公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター)の導入等を含む。

コンクリート塊は現場内へ移動式破碎機などを導入し、極力現場内利用率を向上させ、現場外への搬出を抑制した。

建設汚泥の再利用率向上に向け、埋戻し材、盛立て材としての利用のに向けた研究開発を△△社と共同で進め、国土交通省の新技术情報提供システムに登録した。

現場毎の処理状況掲示板とともに、付近住民からの意見箱を設け、住民意見を反映して、処理体制の随時見直しを図った。

排出量抑制のため、現場毎の単位当たり排出量を公表し、また、優秀な実績を残した現場の責任者を表彰するなどして、排出抑制に向けた社員一人一人の努力意識の形成と向上を図った。

エコアクション21の認証を取得し、ながのエコ・サークル(ゴールドランク)の認定を得た。

平成28年度に電子マニフェストを導入し、適正処理を推進するとともに、事務処理の効率化を図った。

*環境 ISO 14001、エコアクション 21 等